

指定管理者評価票

年度	令和7年度
担当部署	福祉部 福祉課 障がい者支援係

1 公の施設

施設名称	瑞穂町精神障害者地域活動支援センター「ひまわり」		
所在地	瑞穂町大字箱根ヶ崎806-1		
施設概要	敷地面積839.49㎡、建築面積143.41㎡（軽量鉄骨造平屋建） 作業室、事務室、休憩室、シャワー室、トイレ、更衣室、食堂、玄関、ホール、倉庫、面談室		
設置年月日及び経過年数（導入時）	平成14年4月設置 平成18年4月導入	導入後	20 年経過

2 指定管理者及び業務内容

指定管理者	団体名	特定非営利活動法人みずほまち精神保健福祉会			
	所在地	瑞穂町大字箱根ヶ崎806-1			
指定管理期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	選定方法	非公募	利用料金制	導入
指定管理の目的及び求める効果	長期にわたり精神障がい者に対し、社会復帰等の支援を行ってきた民間活力及び経験を取り入れることにより、精神障がい者の自立支援を効率的に実施することを目的とします。				
指定管理の業務内容	1地域活動支援センターの運営に関すること 2施設及び設備の維持管理に関すること				

3 施設の利用状況

（単位：人、件）

利用状況（量）を示す指標名		前指定末 令和2年度	指定期間中の実績				
			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
①	利用者延人数（4時間未満）	1,364	1,353	1,281	1,387	1,359	1,243
②	利用者延人数（4時間以上）	1,036	1,062	1,019	1,041	1,300	1,009
③	相談支援延件数	3,433	1,943	1,633	2,127	2,078	2,349
④	社会適応訓練活動参加延人数	1,263	1,390	1,550	1,438	1,334	1,428

4 指定管理者の収支状況

会計方式

発生主義

（単位：円）

		前指定末 令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
収入	指定管理料	8,920,000	8,920,000	9,751,000	9,858,000	9,818,000	9,899,000
	利用料金収入	8,742,716	9,720,624	10,362,709	10,420,460	12,292,849	11,830,017
	その他	6,763,446	4,709,171	4,424,515	4,683,278	4,286,626	7,454,529
	計	24,426,162	23,349,795	24,538,224	24,961,738	26,397,475	29,183,546
支出	支出	23,848,245	25,548,166	24,329,136	24,647,137	26,688,927	29,370,700
	うち修繕費	0	98,934	0	69,500	55,000	7,180
	うち人件費	21,035,779	20,324,422	19,644,763	17,876,024	21,425,382	24,171,256
	その他	2,812,466	5,124,810	4,684,373	6,701,613	5,208,545	5,192,264

5 今年度の変更点

施設管理・改修に関する こと	令和3年度	事業者：門扉修繕、車修繕
	令和4年度	エアコン点検実施
	令和5年度	給湯器付け替え、多目的トイレ引き戸錠前修理
	令和6年度	台所蛇口取り替え
	令和7年度	倉庫や収納内の整理、不要物の廃棄
事務改善及び効率化等に 関すること	令和3年度	税理士との顧問契約、会計及び総務人事事務を事務局に一本化
	令和4年度	事務関係のデータをクラウド保管、セキュリティの強化と階層化
	令和5年度	データの階層化、ペーパーレス化、ワークフローの見直し、マニュアル作成、ICT化
	令和6年度	電話を常時録音できるものに入れ替え。属人化業務を発生させないように、一つの業務を2名以上が行えるよう取り組みを実施
	令和7年度	職員のスケジュール管理のアプリを導入、共有化
利用状況に関すること	令和3年度	福祉バスの廃止に伴い、下半期から施設送迎開始
	令和4年度	下請け作業拡大（ポスティング）
	令和5年度	物価高騰に伴い週1回の食事提供、月1回買い物レク、利用者希望に合わせたカリキュラムの実施
	令和6年度	一人暮らしの方の緊急対応からの入院が増えたため、支援者との今以上の密な連携やクライシスプランの導入を開始。他施設との差別化を図るための新規自主製品の開発
	令和7年度	SST（Social Skills Trainingの略。対人関係の訓練手法）等の当事者活動プログラムの見直し

6 経費比較（前指定末と指定後）

（単位：円）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
算定	指定後	9,267,000	9,967,549	9,963,000	12,660,680	10,004,000
	前指定末（令和2年度）	9,038,420	9,038,420	9,038,420	9,038,420	9,038,420
	比較	228,580	929,129	924,580	3,622,260	965,580
実経費	指定後	8,920,000	9,862,549	9,858,000	9,818,000	9,899,000
	前指定末（令和2年度）	8,920,000	8,920,000	8,920,000	8,920,000	8,920,000
	比較	0	942,549	938,000	898,000	979,000

※実経費では、「町職員人件費」及び「物品提供金額」を除外

7 個別評価

評価ランク		評価内容
良い	5	協定等を遵守し、仕様に沿った管理であった。
やや良い	4	協定等を遵守し、おおむね仕様に沿った管理であった。
普通	3	協定等をほぼ遵守し、おおむね仕様に沿った管理であった。
やや悪い	2	協定等をほぼ遵守し、おおむね仕様に沿った管理であったが、一部に課題があった。
悪い	1	協定等を遵守できず、仕様に沿った管理ができなかった。

(略語について)

SST：Social Skills Trainingの略称です。

挨拶や身だしなみを整える等のコミュニケーション面及び生活面のスキル向上を目的とした、対人関係構築の訓練手法です。

評価項目		評価の着眼点	評価	管理者評価理由	評価	担当者評価理由
業務評価指標	協定書・仕様書で示した事項	協定書・仕様書で示した事項が適切に履行されているか。 ・ 条例で示した開館日数と実開館日数は適切か など	5	協定書・仕様書、条例等に基き適切に業務を履行しています。	5	協定書・仕様書で示した事項については履行されています。
	維持管理状態	維持管理の状態が適切か。など	5	常に建物、敷地内の清潔維持・整理整頓に努め、防犯、消防用設備等については保守点検を実施し、修繕が必要な部分は役場職員と協議しながら適切に対応しています。	4	設備点検や建物の維持管理については、担当職員と施設職員で確認を行い、計画的な維持管理や修繕に努めています。
インプット指標	行政資源投入量	指定管理料の増減の状況は。 指定管理料は適正か など	5	運営の現状と指定管理料が適切なのかを毎年ヒアリングして頂き、適宜管理料の増額を行って頂いています。	5	管理経費及び人件費増などにより指定管理料に不足が生じているものについて、指定管理事業者からヒアリングを行い、適宜管理料の増額などの対応を行っています。令和7年度は都が類似施設に実施した補助に準じ、物価高騰による経費増分として239,000円を補正予算によって増額しました。
	職員投入及び物品提供の状況	職員投入及び物品提供の状況は。 ・ 町職員の関与や提供物資等は適切か など	5	町職員とは密な連携が図りながら進めました。 必要な物品についてはヒアリングの機会を設けていただき、運営状況を共有し、適宜協議を行っております。	5	施設職員とは日頃から密に連携しています。物品提供の必要性についても、ヒアリングの機会を設け、指定管理者と協議を行っています。
アウトプット指標	利用者数の状況 (事業の活動量、活動実績)	事業計画どおりの利用状況になっているか。 ・ 利用者は事業計画どおりか（環境の変化など外部要因考慮） など 利用者の満足度を得られているか。 ・ 職員の接客態度、利用条件等は適切か など	5	精神障がいをお持ちの方が、日中活動の場所として、創作活動、余暇活動、軽作業的活動などを通して社会参加が図れるよう運営しました。多様化・複雑化する相談内容や居場所としてのニーズをできる限り汲み取り、多職種連携で問題解決を図るとともに、活動内容を柔軟に検討することで、できる限り多くの方が利用できるように取り組みました。 職員の言葉遣いや接し方、波長の合わせ方など指導、相互に点検することで利用者の方が安心して通所できるよう取り組みました。 利用者数は前年度より減少傾向でしたが、他市転居による退所、高齢化による通所日数の減少といった事情がある一方、一般就労やB型作業所へのステップアップによる退所といった成果の反映でもあります。引き続き地域のニーズを掘り起こしながら利用者の安定的な獲得に努めて行きます。	5	発達障害や知的障害を合併する方など、より多くの精神障害者が通える施設になるよう活動内容を工夫するなど、指定管理者の積極的な取り組みがなされています。前年度より相談支援の延件数が増加しており、町の実情やニーズに応じた施設運営がなされています。
	施設の稼働状況 (稼働日数・貸し出し日数)	行政と連携を図り施設の目的を達成しているか。 ・ 施設の設置目的を達成しているか など	5	開所予定日数どおり293日の稼働となりました。天候悪化による開所時間の変更などの場合は役場に変更届を提出し、報告しています。	5	地域活動支援センター・相談支援事業所として、施設の目的に沿った稼働状況となっています。
	利用料収入の状況	事業計画どおりのサービスが提供されているか。 ・ 事業の計画、実施、成果は計画どおりか。 ・ 営業努力の状況は認められるか など	5	事業計画通りに実施しました。利用者の相談件数は増加しており必要な支援を実施しました。カリキュラムへの延参加人数も増加しています。 利用者延数はやや減少しましたが転居による退所や高齢化による通所日数の減少のほか、一般就労やB型作業所への移行の支援の成果の反映となっています。	5	地域活動支援センター事業では、社会適応訓練活動への参加延人数が増加し、より多くの利用者が参加できるよう工夫した成果がみえます、また、相談支援事業では相談支援延件数が増加し、充実した相談支援体制が築かれています。
業務収支	収支の状況	収支のバランスが適切か。 ・ 経営状況は安定しているか など	4	今年度は委託料の見直しによる増収がありましたが、収支としては赤字になりました。今後は物価高騰等でさらに必要経費額も上がることも見越し、引き続き経費削減や新規獲得等での増収の取り組みをしていく必要があります。	4	人件費・物価高騰に伴う委託料の見直しを行ったものの、収支はマイナスの状況です。必要経費は年々増加していますが、施設の運営目的や利用者の障がい特性上、利用者数の大幅な増加や増収を見込むことは難しいため、更なる経費削減や増収のための努力が必要です。

アウトカム指標	利用者の利便性の改善	利用者の利便性向上のため、どのような努力をおこなっているか。 ・利用者の意向反映について、適切に改善策が講じられているか など	5	昨今の物価高、家族関係のことなど、生活面の困りごとに関する相談が増えています。職員に相談しやすい雰囲気、関係づくりを進める一方、必要に応じて面談を実施し、具体的な解決方法を話し合い、支援を提供しました。利用者の不調時、トラブル発生時には早期の危機介入、緊急対応を実施しました。医療機関や関係機関との連携では、ひまわりが中心に動くケースが多いため、解決に向け柔軟に対応し、利用者のセーフティネットとして機能するよう取り組みました。利用者が安心して利用できるように、職員の専門性の向上を図る研修等に力点をおいて取り組みました。特に虐待防止研修は全職員が参加し、法律、制度の再確認をするとともに、利用者との関わりで生じる小さな違和感、グレーゾーンに着目し考察し続けることで虐待を防止することのみならず、支援の質の向上につなげる視点を学びました。	5	利用者が不安なく日常生活を送れるように、相談しやすさの向上に取り組むとともに緊急時にも適切な対応がなされています。また、職員に対する研修を実施することで利用者が安心して通所できるように努めています。
	プログラム等質の改善	施設の活用や事業への創意工夫はどのようなことを行っているか。 など	4	日々の活動として各種カリキュラムを実施し、それらを通して社会スキルの向上、対人交流、表現、学びの機会となるよう取り組みました。ゲーム活動では、特に健康麻雀は人気で参加率が高い反面、それ以外のゲームについては定着が難しく今後もメンバーの意見を活かしながら企画を考えていく必要があります。「アーティスト（絵画等表現）活動」はダイヤモンドアート、スクラッチアート、折り紙など様々な表現方法ができるようにしたことで、絵に苦手意識がある方でも参加できるよう工夫しました。アクセサリー作りや斎場清掃といった工賃が支給されるプログラムは参加人数も増えており地域での売り上げも伸びています。地活の活動であることも踏まえ個々のペースにも配慮しながら、できる限りエンパワメントに繋がれるように進め、希望される方には就労継続支援B型等への移行も支援しています。主要なカリキュラムであったSSTは、当事者の課題が複雑化したことによりセッション内でのメンバー間の衝突が増えるなどストレス要因となったため昨年度より一旦休止し、あり方について利用者の意見を取り入れ、他法人の「当事者研究」に職員研修として参加し参考にさせてもらいながら見直しを行いました。会場選びと参加人数のコンパクト化などの改善を行いテストを実施。令和8年度より本格的に再開する予定です。	5	利用者それぞれの興味関心を考慮し、複数のメニューを用意するなど対象者に合わせたプログラムの改善が見られます。かつては主要な取組となっていた内容を思い切って休止し、現在の利用者の状態に合わせてカスタマイズをするなどの工夫も見られます。
	利用者の満足度の状況	モニタリング（利用者の満足度）はどのようなことをおこなっているか。など	4	統合失調症をはじめとする精神疾患のみならず、発達障害、知的障害など神経発達症の方、傷つきを抱えている方、8050問題、親亡き後の心配といった家族課題がある方、様々な生活課題がある方、年齢層も高齢から若年まで幅広くなるなど、利用者像が多彩になっており、必要な支援も複雑化、多様化しています。これを受け、個別支援計画を作成し半年に1回モニタリングを行い利用者の意向を確認しながら、面談、電話、声かけを行い、必要に応じ関係機関との連携や通院同行、入院対応など行うなど、個別状況に応じて柔軟に支援を提供しています。利用者からは話を聞いてもらって安心することができた、生活の課題が解決できた、具合が悪い時に乗り切ることができた、といったお声をいただいております。	5	面談等の方法により、利用者の意見を聴取し、事業運営や支援方法、プログラムの内容に反映させています。施設利用に止まらず、利用者の病状や体調、生活面まで伴走的に支援を行っており、利用者信頼関係を築けています。
遵法検査	遵法検査の状況	法定検査及び必要な検査並びに東京都や町の監査は適切におこなわれているか。など	5	消防設備点検・非常通報装置点検は通年通りに行っております。	5	消防設備等の点検は計画通り実施されています。法や都の基準に沿った事業を実施しており、必要な報告は行われています。
総括	経費比較（前指定末と指定後における町支出の比較）	町職員の関与は適切か ・経費の状況は適正か。など	4	町福祉課とは日常的に密な報告相談、ヒアリング等を通じて適正な事業運営となるよう努めました。今後も地域のニーズや精神保健福祉を取り巻く状況は複雑に変遷していき、当事業に求められる業務の質量が変化していくことが予想されるため町職員と協議、状況共有をしながら支援の質向上と経営面の均衡の適正化を図っていきます。	4	日頃から施設職員との連絡を密に行い、事業報告や予算の時期にはヒアリングを実施して、適正な経費状況となるよう、予算確保に努めています。令和7年度は都が類似施設に実施した補助に準じ、物価高騰による経費増分として239,000円を補正予算によって増額しました。また、指定管理者の努力により、事業費収入も増額していますが、収支はマイナスとなりました。事業の性質上、指定管理者の営業努力で大幅な収入増が見込める施設ではないため、今後も指定管理者と協議しながらサービスの質の向上と収支の改善を図っていきます。